

新任の挨拶

「新任のあいさつ」

医学部・病院事務部会計課長 浦田 明宏



平成27年4月1日付けで、会計課長として鳥取大学医学部から赴任してまいりました。鳥取大学では、医学部の所属で特に病院を主体として26年間勤務しておりました。法人化直前直後は経営改善の担当をしておりまして、非常に厳しい時代を経験させていただきました。この経験を高知大学で活かすことが出来たらと思っております。特に、本院では再開発の真只中であり、これから再開発で借り入れた費用を返済していかなくてはなりません。そのため、さらなる健全な経営を維持するために、病院収入確保、経費節減に取り組み、微力ながら頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

「新任のご挨拶」

医学部・病院事務部学生課長 松田 政盛



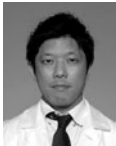
平成27年4月1日付けで、医学部・病院事務部学生課長として、4年1ヶ月ぶりに高知工業高等専門学校から、医学部に帰ってまいりました。教職員の皆様には温かく迎えていただき感謝しています。4年の歳月は、各キャンパスにおいて事務の一元化がなされ、学務部岡豊学務課及び岡豊入試室は、医学部・病院事務部の学生課所属となり、業務責任の明確化が図られ、仕事上の範囲も広がっています。業務においては、学生と社会に対する責任をとれる教育への対応、医師国家試験への対応、医学教育認証評価制度への対応、大学院入試における志願者の確保など課題がありますが、これまでの経験を活かし一杯取り組んでいきたいと思ひます。今後もより一層、学生の立場に立って対応し、いつでも気軽に立ち寄っていただける学生課をめざしたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いたします。

その他の異動

◆総務企画課長に高橋 聡 課長(学生課より異動)

◆医事課長に都築 泰仁 課長(総務企画課より異動)

救急部 新 スタッフ紹介



救急部 特任講師 門田 知倫

4月から救急部に勤務することになりました門田です。こちらに来るまでは高知医療センターで1年間救急医療に携わってきました。専門は脳神経外科です。もともと高知県出身で、大学で県外に出て以来ずっと県外で働いていましたが、東日本大震災を機に高知に戻ってきました。高知県の救急医療と災害医療の底上げを目指して頑張りたいと思ひます。また脳神経外科救急にも取り組んでいきたいと思ひます。



救急部 特任助教 濱田 知幸

4月から救急部に配属になりました濱田知幸です。私は、循環器疾患が専門でこれまでは虚血性心疾患に対するカテーテル治療を中心に診療してきました。当院の救急部は脳神経系と循環器系の救急疾患を主な対象としていますが、2次救急病院としては、できる限り地域からのニーズにもこたえていかなければならないと思ひます。そのためには各診療科の先生方のご協力が必要です。どうぞよろしくお願いたします。



救急部 特任講師 古田 興之介

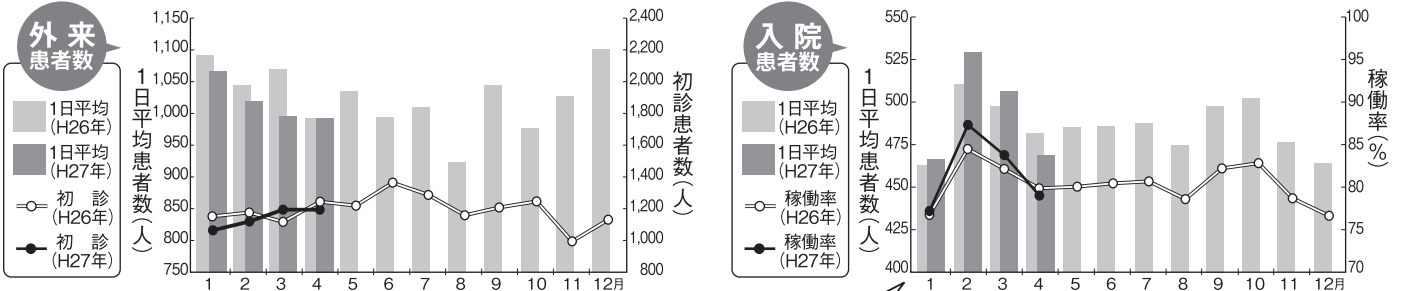
「救急部へのご理解、ご協力をお願いします」  
専門は神経内科(特に脳卒中)で、福岡県から赴任しました。特定機能病院の要件見直しにより、救急科がないと高知大学医学部附属病院は特定機能病院を取り消される可能性があります。よって県民への医療を維持向上するためにも、救急部に対する皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。また存続には、救急専門医を目指す若い医師の定着が必須条件です。救急・災害医療や神経救急に興味ある医学生・研修医諸君、ぜひ一緒に盛り上げていきましょう!



救急部 特任助教 楊川 寿男

高知大学医学部を卒業後、高知県立幡多けんみん病院で初期研修、引き続き同院脳神経外科で働かせて頂き、この4月から高知大学医学部附属病院救急部に赴任することとなりました。救急部では、脳卒中、心筋梗塞を積極的に受け入れていく方針であり、他のメンバーとともに、少しでも皆様のお役にたてればと思ひます。どうかよろしくお願致します。

診療状況



3月は、昨年同月に比べて1日平均患者数・稼働率ともに増加して比較的高い値となった。しかし、病棟や手術部移転の影響で4月は3月に比べて患者数・稼働率ともに大きく減少。

編集後記

昨年度、病院ニュース編集委員会の委員を務めさせていただき、今年度は委員長の大役を仰せつかることとなりました。医学雑誌編集委員の立場として、編集作業に携わってきた経験を活かして、読者にとって読みやすく分かりやすい広報誌になるように、1年間頑張りたいと思ひます。

新病棟が完成し、附属病院はネクストステージを迎えました。附属病院の今後の展望を知っていただくために、年度計画(平成27年度)、中期

目標・中期計画について総務企画課に解説していただきました。附属病院にとって、救急部の充実が長年の課題でした。今年度、救急部のスタッフが増員されましたので、紹介させていただきます。このように、附属病院は確実に前進していることを読み取っていただければと思ひます。

全職員が職場に誇りを持ち、モチベーションを向上できるような病院ニュースを目指したいと思ひますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(文責:福島 敦樹)